

## 女性運転者の運転実態と事故・違反に関する調査研究（昭和 57 年度）

女性の運転免許保有者の増加は、交通事故の発生にも反映しているが、女性ドライバーに関する体系的な資料に乏しい。そこで、女性ドライバーの実態、運転態度、安全意識など、車とのかかわり合いを調査し、さらに交通事故の分析により、女性ドライバーの起こす事故を把握した。

- ① 昭和 57 年 9～10 月の免許更新時講習者 6,100 人のサンプル（女性 3,370 人）に対するアンケートを行うとともに、主に昨年調査を行ったサンプルをもとに事故違反データ分析を行った。
- ② アンケート調査の結果、女性ドライバーの約半数は主婦であり、ペーパードライバーの割合は、男性 4.6% に対して、女性は 17.7% であった。女性の保有するのはほとんどが普通免許だが、年齢の増加と共に原付免許が増えている。女性の車の利用目的の第 1 位は買物であり、次いで通勤、業務の順である。若い年齢層では通勤およびレジャーへの車利用が目立つ。月間走行距離は平均約 320 km で、男性の 880 km の 36% となっている。四輪では女性は年齢が高くなるにつれて走行距離が多くなり、男性は年齢が高くなるにしたがって、走行距離は逆に低下する。女性の 52% は何らかの形で毎日ハンドルを握っている。
- ③ 男性ドライバーからみた女性ドライバー観は、自己本位、甘え、対応のまずさといった特性で代表され、女性の女性ドライバー観も似た様な傾向を示している。子供を助手席に乗せたほうが安全とする回答は 6.7% と低いものの、後部座席に座らせると気が散るので、助手席に乗せたいとする者が中年層に多い。交通の場面で女性ドライバーが苦手とするのは「急いでのパック」「知らない道の走行」「狭い道でのすれ違い」などであり（図）、原付では、「狭い道でのすれ違い」「大型車への追従」「交差点での右折」などで不安感が高い。
- ④ 事故違反データを見ると、女性の事故率は走行距離を度外視すれば、男性にくらべて低く、女性 1% に対し男性 3% 程度である。過去 3 年間にわたる違反者率は、年齢が高くなるにしたがい低下し、60 歳代では 30% 台までになるが、女性は年齢と無関係で何れの年代も 20% 台にとどまっている。
- ⑤ 交差点での事故事例の分析では、女性の事故は相手をかなり手前から認めながらもそれに対する対応のまずいケースが指摘され、また運転と関係のない事態に気をとられてしまうケースも多い。これらの交差点事故を数量化理論によって、男女、それぞれを特徴づけると、男性原付事故では当事者の無理な運転に、また女性では他の運転者も含めた環境への依存性が高いことが知られた。女性の四輪車の事故では、無理な走行が多く男性とはやや異なる傾向を示した。

図 不安得点の分布

